

標本のなかからも検出された。従来これらの地域では1属1種ということで、見落されたふしがある。節の数や節間の長さ、花序が葉から超出するか否か、上位小花が小穂の長さに占める割合などはこの属の識別に大事な特徴といえる。ホソヌメリは茎が極端に細く、分布の極限近くに生える貧弱な型で、日本産のものは皆小穂に剛毛があり、関東から東北地方にかけて見られるので変種として扱った。以上のように、日本には2種2変種が自生することになる。本研究に多大な便宜を計って頂いた科学博物館や東京大学資料館の諸先生方に感謝する。また、日頃標本の整理や研究に協力してくださった鍛代スミエさん、郡美恵さんに謝意をのべたい。

○若き日の原 寛博士の日記 (5)

- 5月10日 学校から帰りヲセソウの記載をかいた。(注：前年至仏山で採集)
- 5月16日 学校から帰宅後、4時出発。同25分発列車で平井と伊豆湯ヶ島に向ふ。今度の旅行は、来月2日陸下天城八丁池へ行幸のためその下調に来てくれとの事で行くことにした。午後8時40分修善寺着。直ちに自動車で湯ヶ島落合楼に行き投宿。
- 5月17日 午前6時起床、8時過出発。横田、内田氏等と自動車で杉本に至り、それより植物を教示しつつ八丁池に至り、昼食。隧道入口へ戻り、徒歩にて浄蓮滝に至り採集。6時半に宿に帰る。夕食後植物名を数え、11時就床。
- 10月1日 学校より帰宅後、4時より中目黒へ行き、川村先生を待ち、共に別荘に行き、カゴタケをみて7時帰宅。
- 10月4日 学校を終り直ちに品川を経て逗子に向ふ。1時20分着。荒井校長等と会い、逗子小学校教員の植物実地指導の講師として、神武寺裏口石切場に至り、38名の教員に指導しつつ登り、寺の所より本道を下り、沼間分教場に4時半着。それより菌に関する講演をし、種々質問を受け、6時半別荘に戻る。
- 10月16日 東京日日の朝刊に僕がカゴタケを発見した事についての記事が大きくてた。
- 11月21日 放課後3時より、理学会第9回例会に出席、菌に関する講演をした。

昭和5年(1930)植物採集旅行表

- 3月30日 紀伊御船、鮎田。31日瀬八丁。
- 4月1日 瀬八丁。2日新宮。27日伊豆天城、八丁池。28日浄蓮滝、猫越。
- 5月17日 伊豆天城、八丁池。31日軽井沢。
- 6月1日 軽井沢、小瀬。22日相州武山、大楠山。
- 7月12日 軽井沢川越石川谷。13日離山。14日川越石川谷。15日碓氷峠。
- 8月6日 上高地、徳沢間。7日上高地、中ノ湯。21日南軽井沢。23日軽井沢湿原。25日妙義白雲山。
- 9月28日 上州水上。
- 10月4日 逗子神武寺山。5日神武寺山、桜山。19日日光中禅寺。20日中禅寺。(終)